

三島村では過疎化、高齢化が進んでいる。そのうえ村には小中学校だけで高校がなく、高校進学で村の外に出て行くことになっている。高校卒業しても村にもどって来る若者も少なく、人口減少と過疎化がどんどん進行している状態になっている。

人口減少は、村の活性化において致命的なので人口を増やすことが最も重要であると思う。そのため三島村の人口増加の政策で島への移住者を募り、移住者には小牛または50万円、3年間の生活助成金などを行っている。近年、地方移住を希望する都会人は増えていて、生活面に関して移住に不安を解消するための後押しになっていると思う。実際にはこれに多数の応募があり、村に移住する人が増えたことで活性化に繋がっている。しかし、三島村の働き場所は今回聞いたお話では学校、銀行、発電所、郵便局と限られている。さらに、若者が村で働くことも難しいため、結果高校を卒業後には島外で働き場所を求めることになっている。このためには村に働き場を増やすことが重要であると考えます。三島村での働き場を増やすには事業の参入や収入を得ることが必要だと思ふ。

活性化について、今回三島村での研修を通して真っ先に思ったことが、観光業である。私は硫黄島の名前は聞いたことはあったが、実際にどんなところかは全く知らなかった。硫黄島に着いて真っ先に目にするのは海底から湧き出す温泉による茶色の海、そして、露天風呂の東温泉の景色には深く感動した。硫黄島にこんなに独特な景色があるとは知らなかった。その他にもジャンベなど普段体験できないことを三島村で体験することができた。研修を終えて港を出る頃には、また硫黄島に訪れたいと深く思った。

その時に今まで硫黄島という場所がどんなところなのか知らなかったのを疑問に感じた。茶色の海、露天風呂の東温泉、ジャンベ、どれも日常生活で体験できないオリジナリティのあるものでとても魅力のあるものである。こんなに魅力のあるところを知っていたら、訪れたいと自分なら思う。観光業では一層活性化に繋がると感じた。ただ自分だけが知らなかったと思ったが、研修後の講義で行われた討論では、硫黄島がどんなところか知らなかったという人が多数見受けられた。

よって、硫黄島について知らないのはPRが不足しているのではないかと感じた。普段目にしない茶色の海、絶景の東温泉の写真を見れば、ここに行きたいという人も少なからずいると思う。まずは多くの人に硫黄島について知ってもらうことが必要ではないかと思った。硫黄島の独特の地形は観光業の振興になり、観光業こそが三島村の活性化の糸口になるのではないかと思う。